

研究会・シンポジウム報告

2020年2月17日（月） 公開研究会報告

テーマ： 日本資本主義論争の時代とその遺産

報告者： 藤井 祐介氏（大谷大学非常勤講師）

「山田盛太郎伝のための素描」

武藤 秀太郎氏（新潟大学経済学部准教授）

「山田盛太郎『日本資本主義分析』の理論と射程」

阪本 尚文氏（福島大学行政政策学類准教授）

「市民革命は未完のプロジェクトか？」

——講座派歴史学から戦後憲法学へ——

コメント：永江 雅和所員（本学経済学部教授）

場所： 専修大学神田キャンパス 302 教室

参加者数：14名

報告内容概略：

本研究所は昨年設立70周年を迎えたが、その歴史において講座派の泰斗と言われた山田盛太郎の仕事を見直すことはできない。今回の公開研究会では、(1)山田盛太郎の著書『日本資本主義分析』の背景をなす日本資本主義論争がどのようなものだったのか、(2)また『日本資本主義分析』後の戦時期の山田盛太郎はどのような展開を遂げたのか、(3)山田も含めた講座派ないし日本資本主義論争の議論内容がいかなる形で継承されたのか。そのそれぞれについて上記の3氏の報告が応答する形となった。

藤井報告は(1)に関して山田がそもそも労農派の一員としてブハーリンに依拠して福本イズム批判を企図していたことを明らかにし、武藤報告は(2)に関して東亜研究所時代の満洲・華北調査が山田にとって『日本資本主義分析』時代の「封建」評価を見直させる契機になった可能性を指摘し、阪本報告は(3)に関して講座派的歴史観が比較経済史学派（大塚史学）を経由して戦後憲法学の「立憲主義」論に大きな影響を与えていることを示した。

以上の報告に関する永江所員からのコメントも含めた全体討論では、山田理論を基礎づけたマルクス主義思想、山田における理論と実地調査との関係、そして山田理論が提示した天皇制批判の構図の現代的意義といったものが議論された。

記：専修大学経済学部・恒木健太郎

2020年2月18日（火） 定例研究会報告

テーマ： 川崎市における経済活動の実態と市民活動の現状

報告者： 伊藤和良（川崎信用金庫参与）

： 犬塚裕雅（(公財) かわさき市民活動センター参与）

コメンテーター： 遠山浩（本学経済学部教授・所員）

時 間： 14：00～17：30

場 所： 生田校舎2号館 221・222 教室

参加者数：14名

報告内容概略：

2020年度より発足した特別研究助成「川崎市をフィールドとする産業・労働・生活の現状と課題に関する研究」グループの共催で行い、産業ならびに市民活動に関わる専門知識を有するお二人より報告を頂いた。

伊藤和良氏からは、「新たな産業施策の黎明期～伊藤の関与した産業施策について（2004～2010年）」として、氏が川崎市経済労働局長として従事した産業振興政策が、高橋市政から阿部市政に移行したことおよび住民の意識との関わりの中でどのように展開したか、その経緯が詳細に跡づけられた。

犬塚裕雅氏から「かわさき市民活動センターの市民活動推進事業からみた川崎市の市民活動の現状」として、市民活動センターのサポート体制の詳細と、同センターの支援を経ながら、住民活動、市民活動が始まり維持存続が図られていく過程と課題のそれぞれが明らかにされた。

お二人からの報告を受け、遠山所員からそれぞれの報告へコメントがされたのを始めとして、複数の出席者からの質疑によって、さらにそれぞれの報告内容が深掘りされ、出席者の理解の助けとなるやり取りが行われた。両報告内容は、今後本研究所の「月報」に原稿として掲載されることとなっている。

記：専修大学経済学部・小池隆生